

愛死に

FUKAIPRODUCE 羽衣 2017 再演版

作 糸井幸之介

登場人物

男 1 榎原

男 2 澤田

男 3 岡本

男 4 キムユス

男 5 高橋

男 6 山森

女 1 深井

女 2 新部

女 3 野上

女 4 荒木

女 5 伊藤

女 6 鯉和

不良少年 平井

不良少女 浅川

深夜の劇場。誰もいない。

『ロミオとジュリエット』の典型的な舞台セットが組まれている。しかし公演の前なのか後なのか、半分ほど組まれ、残りは比較的無造作に立てかけられていたり積み重ねられていたりする。

劇場の扉が開き、不良少年と不良少女が入ってくる。

不良少女 おじゃましまーす！

不良少年 しっ、俺たち忍び込んでんだぜベイベー！

不良少女 マジだっ！？……セコム、してますかー？

不良少年 セキュリティー、甘すぎじゃねー？

不良少女 スウィートセキュリティー。スウィートダーリン。

不良少年 スウィートベイベー。(劇場の椅子を見て) ……椅子だらけだぜ。

不良少女 休むには持ってこいね。

不良少年 ツいてるぜ。

不良少女 ここは、なんの建物なんだ？

不良少年 劇場じゃねー？椅子だらけだし。

不良少女 劇場ってなにやるところ？

不良少年 演劇とかやるとこじゃねー？ブクロにこんなんあったんだ。

不良少女 演劇ってオールスタンディングじゃないんだ？

不良少年 立ちたきや立って、座りたきや座んじゃねーの。で、感動したきやして、寝たきや寝んだぜ。

不良少女 演劇って、自由じゃん。

不良少年 おっ、これ舞台セットじゃねー？

不良少女 ねえ、セットに上って、あたしのこと愛してるって叫んでみて〜！

不良少年 叫んじゃまじーっしょ、俺たち忍び込んでんだから……

不良少女 恥ずかしがり屋のあんたが好き。

不良少年 恥ずかしがっちゃういねーよ。耳元でだったらいくらでも囁いてやるぜ。あいしてる……

不良少女 マジだっ！？

不良少年 それに俺、なんか知ってる、どっかで見たぜ。女が上だ。女が、バルコニーさ。

不良少女 じゃあ、あたし上る〜。

不良少女、舞台セット裏の階段を上る。

不良少年 おい、気をつけるよベイベー。

不良少女 (声) へーき、へーき……おっと、おっとと……

不良少年 ったく、ヤキモキさせやがるぜ……

バルコニーの辺りが光り輝く。

不良少年 あれ、待てよ、光ってんじゃん……窓から光、洩れてんじゃん……ひよっとして、おまえ、輝いてんの？

不良少女、窓から顔を出す。

不良少女 ひよ〜たけー!?

不良少年 ベイベー、チャーミングだ!

不良少女 あたし高いとこ苦手ー。高所恐怖症(口が回らず上手く言えない)。こうひよ、こうしよひよう、ひようしよこう、きよ、きよ……

不良少年 あ〜、なんか言ってる、ちよーか〜いー(超可愛い)。もう一回、もう一回なんか言っておくれ……

不良少女 ねーえ、あんた〜。

不良少年 ん〜、なあに?

不良少女 ねーえ、あんた〜。

不良少年 ん〜?

不良少女 あんたはなんで、

不良少年 う〜ん。

不良少女 あんたなのー?

不良少年 ん〜?

不良少女 あんたは、

不良少年 う〜んう〜ん。

不良少女 なんで、

不良少年 う〜ん。

不良少女 あんたな ワー!!!

不良少年 ウォー!!!

不良少女がバルコニーに触った弾みで、舞台セットの巨大なパネルが倒れる。連動して、何枚か倒れる。凄い音が響く。

不良少年 ウォー!!!

不良少女 ワー!!!

不良少年 やべえ、やべえ、やべえ……

不良少女 どーしよ、どーしよ、どーしよ……

不良少年 逃げっぞ! すぐ逃げっぞ!

不良少女 足が、足が、すくんで、動かない!

不良少年 あ、助ける、俺助ける、今助ける!

不良少年、巨大なパネルが倒れて剥き出しになった舞台セット裏の階段を上る。

不良少女 あたし、やっちゃったー……

不良少年 ほら、掴まれ!

不良少女 しくじったー、ごめん……

不良少年 いーから、ほら、歩けっか?

不良少女 ごめん……

不良少年 いーって、ほら、段差、気をつけろよ。
不良少女 へたこいたー……
不良少年 へーき、へーき……

階段を下りる。

不良少女 あたし、やっぱ歩けなーい。
不良少年 おいおい、セコム来ちゃうぜ。
不良少女 おんぶー。
不良少年 はいはい。
不良少女 やった〜。
不良少年 とつととずらかつぞ。
不良少女 あんたの背中、あつたかーい。
不良少年 おまえのおっぱいも、柔らかけーよ。
不良少女 あんたのエロいとこ嫌い！
不良少年 しょーがねーだろ、当たってんだから。
不良少女 あっはは。

おんぶして、劇場内通路を歩いている。

不良少女 ねえ、あんた。楽しいよー。
不良少年 ああ、人生最高の夜だぜ。
不良少女 逃げろー、逃げろー。
不良少年 ずらかつぞ〜。
不良少女 逃げろー、逃げろー……

二人、笑いながら、劇場の扉から出る。

『ロミオとジュリエット』のセットの一部である棺の蓋が開く。中から男1が出てくる。倒れたパネルの上を、亡霊のようにゆっくり歩き回る。(男1の台詞中、男2、男3、男4、男5、男6、も棺から出てくる。皆、倒れたパネルの上を亡霊のように歩き回る)

男1 前略 中略 後略 冗談です。お久しぶりに、冗談です。お元気ですか？生きていますか？かつて、あなたに手紙を書いたこと、ありましたっけ？あったような気がします。あなたに恋をして、振り向いて欲しくて、手紙を書いたこと、あったような気がします。

シティーボーイで教養のない私の手紙は、きつと、みつともない文面だったと思います。それでもあなたは、ちゃんと読んでくれた。他人の気持ちから目を逸らさない、あなたに、感動したのを覚えています。

私もそのように、あなたのように生きたいと思いましたが、なんだか、誰の気持ちもちゃんと見ようと思いません、すっかり年老いてしまいました。

最近、字を書いていると、手が震えてしまって、なんなんでしょう？老人特有の、手が震えてしまって、小刻みに波打った気色の悪い字しか書けません。

でも安心してください。私はこの手紙、書いてないんです。心の中で、思ってるだけなんです。それでもなんだか、この心の中の手紙が、あなたには届くような、あなたなら読んでくれるような、そんな気がしています。都合のいい話です。こんなに年老いても、シティーボーイで教養のない、みつともない手紙です。

私は歩きながら、この手紙、書いているんです。老人の、散歩です。ゆっくり、右足踏み出して、一文字、ゆっくり、左足踏み出して、一文字、書いています。

足腰もすっかり弱くなり、フラフラしています。なんだか目が回ります。地球が回っているから、目が回って、ちよつと酔ってます。遊園地の乗り物で、コーヒークップであるでしょ？あれにずっと乗ってるみたいに、フラフラしています。

お元気ですか？生きていますか？

時々、あなたのこと、たまらなく懐かしくなります。私は、あなたの前でしか、生きていなかったような気がしてくるのです。私のことを、覚えていますか？私はあなたの顔、はつきりとは思いません。あなたの顔を思い出そうとすると、私の、母親の顔が混じるんです。あれ？母親の顔を思い出そうとして、あなたの顔が混じっているのかな？

なんだかお腹が空いてきました。老人になっても、お腹って空くんですね。いや、むしろ、どんどん食いしん坊になってる気がします。

ママー、オナカヘッター

ママー、オナカヘッター

亡霊のように歩き回っていた男たち、やがて、かつての恋人の幻を見て、立ち止まる。

女1、棺から出てくる。倒れたパネルの上を、亡霊のようにゆっくり歩き、台詞中の適当なところで座る。(女1の台詞中、女2、女3、女4、女5、女6、も棺から出てくる。皆、倒れたパネルの上を亡霊のように歩き、台詞中の適当なところで座る)

女1 窓は、開けてても、閉めてても、良かったのです。できるだけ大きな窓に、できるだけたくさんさんの風物詩が、収まっていれば、良かったのです。お陰様で、私の部屋の窓はとっても

男1・男5 私は歩きながら、この手紙、書いているんです。老人の、散歩です。ゆっくり、右足踏み出して、一文字、ゆっくり、左足踏み出して、一文字、書いています。足腰もすっかり弱くなり、フラフラしてます。なんだか目が回ります。地球が回っているから、目が回って、ちよっと酔ってます。遊園地の乗り物で、コーヒーカープってあるでしょ？あれにずっと乗ってるみたいに、フラフラしてます。

男1 お元気ですか？生きていますか？

時々、あなたのことが、たまらなく懐かしくなります。私は、あなたの前でしか、生きていなかったような気がしてくるのです。私のことを、覚えていますか？

男2 (前の台詞に重ねる) 前略 中略 後略 冗談です。お久しぶりに、冗談です。お元気ですか？生きていますか？お元気ですか？生きていますか？生きていますか？

男1

volume を mute して

心が燃えてんだ

女1

crazy love

男1

瞳のずうっとずうっと奥に

火の粉を写してる

男たち 私はあなたの顔、はつきりとは思いません。あなたの顔を思い出そうとすると、私の、母親の顔が混じるんです。あれ？母親の顔を思い出そうとして、あなたの顔が混じっているのかな？

女たち あ、でもね、最近、私、お化け、感じるんです。このお庭にも、お化け、たくさんいるんですよ。葉っぱのお化け、お花のお化け、幼虫のお化け、ナメクジのお化け、土のお化け、露のお化け、空気のお化け……

女5 (前の台詞に重ねる) おほほ、やっぱり私は、シティーガールで教養のないままです。愛も、お化けになるのかもしれないね。

ウラメシーユー

ウラメシーユー

女たち

volume を mute して

心が燃えてるわ

男たち

crazy love

女たち

瞳のずうっとずうっと奥に

火の粉を写してる

男5 なんだかお腹が空いてきました。老人になっても、お腹って空くんですね。いや、むしろ、どんどん食いしん坊になってる気がします。

ママー、オナカヘッター
ママー、オナカヘッター

男たち〜

volume を mute して

心が燃えてんだ

女たち〜

crazy love

男たち〜

瞳のずうっとずうっと奥に

火の粉を写してる

皆〜

volume を mute して

心が燃えてんだ(るわ)

crazy love

瞳のずうっとずうっと奥に

火の粉を写してる

Ah.....

音楽終了。

あうとどあせくーす

音楽開始。夜の街の恋人たち。

男たちへ

ビル風と、イエー……

女たちへ

火遊び、ウツフン……ビル風と、ヒュルリララ……

男たちへ

火遊び、アチチチ……

女たちへ

夜……

男たちへ

と、囁けば夜になる……

女たちへ

夢……

男たちへ

と、囁けば夢になる……

女たちへ

夜の夢……

男たちへ

建物の吐息……人間のより色っぺー……

女たちへ

あら、妬けちゃうわー……

男2 ヒュルリララ……（片手を上げて）ヘイタクシー！

女2 アチチチ……片手を上げてタクシー停める、あなた素敵よ。

男2 おっと、腋の下からフェロモン出ちゃった？

女2 （腋の下を嗅ぎ）ん〜デオドラント。

男2 さあ乗って、お姫様（とエスコート）。

女2 ワオ！

男2 運転手さん、ラブホまで。

女2 車が揺れると、あたしたちくつつく。

男2 揺れれば揺れるほど、俺たちくつつく。

女2 こうしてくつついて、生きていたいわ。

男2 二人が一つになるくらい、くつつきたい。

女2 あなたの一番敏感なこと、あたしの一番敏感なこと、くつつきたい。

女2、こっそりと、男2の股間を触る。

男2 おふ……でも、そんなとこ、公序良俗に反しちゃう？

女2 運転手さんしか、見てないわ。

男2 そんなとこって、どんなとこ？

男2、こっそりと、女2の股間を触る。

女2 あん……運転手さんだけ、知ってるわ。

女6 ヒュルリララ……夜風がちよっぴり冷たいわ。

男6 アチチチ……君、薄着なのさ。

女6 怒ってる？

男6 怒ってない。

女6 怒ってる。

男6 怒ってないけど、ほら、道行く男たちが、ほら、君をチラ見してる。ほら！ほら！

女6 いーじゃん、減るもんじゃないし。

男6 誰にも見せたくないんだよ！

女6 だったら、あなたが上着になって。

男6 え？

女6 あなたが、あたしの、上着になって。

男6 こうかい？

女6 誰にも、どこも、見せないで。

男6 こうかい？こうかい？

男5 ヒュルリララ……夜空は星屑の振り掛けご飯。

女5 アチチチ……ご飯茶碗じゃ足りないわ。

男5 俺は小5から、丼飯だったよ。

女5 あら、遅し。あたしは小5でロストバージン。

男5 なんてこったい！

女5 相手は中2の暴走族で、

男5 そんな話し、聞きたくないね！

女5 場所はゲーセンのト……

男5 それ以上そんな話ししたら、相手の男を殺しに行くぜ。

女5 あら、遅し。

女4 ヒュルリララ……嘘泣きの前に嘘ついたら、涙は本当になるの？

男4 アチチチ……ポロポロしてる君が好きさ。

女4 悲しみのない喜びは教科書で、悲しみのない怒りは嗜好品で、悲しみのない悲しみはぶりっ子よ？

男4 しょうがないよ、君は僕のアイドルなんだから。

女4 えくん、えくん、えくん。

男4 君の涙は何時だってパールさ。

女4 ねえ、あたしを見詰めてください。

男4 ねえ、僕に、見詰められてください。

男3 ヒュルリララ……
女3 アチチチ……ねえ？
男3 ヒュルリララ……
女3 アチチチ……ねええ？
男3 ン、なんだい？
女3 なんでもない。
男3 え、なんだい？
女3 なんでもないよ。なんだい？って言って欲しかったの。
男3 この街を走る車の数は、何台？それってとってても、難題。
女3 キャハハ。恋は盲目、つまらない駄洒落も楽しいわ。
男3 ちえっ、なんだい。

女2 ヒュルリララ……運転手さん、窓、開けていい？風を感じたいのよ。
男2 アチチチ……運転手さん、窓を開けて。熱を冷ましたいんだ。
女2 素敵。あなたの横顔の背景で、夜の街がスクロール。
男2 (女2を見る) 俺には君の背景なんて見えない。だって、君の笑顔しか目に入らないから。

女2 あーん、横顔見てたのにい。あたしの笑顔が見たいんだったら、今は横目で見て。
男2 (横目で女2を見る) こ、こうかい？
女2 ウフフ、流し目、素敵よ！
男2 (横目のまま) 笑顔が、素敵だ！

男1 ヒュルリララ……さっき飲んだビールが、おしっこになった。
女1 アチチチ……あなたと行く居酒屋は、デイズニールランド。
男1 立小便がしたいけど、このコンクリートジャングルじゃ、地面、染み込まない。
女1 あたしが一滴残らず、飲んであげる。なんちゃって。
男1 お、お、お馬鹿さん。
女1 もっと、叱って。
男1 アカン、股間、膨らんじゃう。
女1 いいじゃない、おしっこ出にくくなるんでしょ？なんちゃって。
男1 お、お、お利口さん。
女1 もっと、褒めて。

女3 ヒュルリララ……あなた、2股かけてんでしょ！
男3 アチチチ……ん、マンツーマン？
女3 あなた、3股かけてんでしょ！
男3 ン、マンスリーレオパレス？
女3 あなた、4股かけてんでしょ！
男3 ン、マンフオール？
女3 あなた、5股かけてんでしょ！
男3 ン、マンゴージューズ？
女3 キャハハ。恋は盲目、つまらない駄洒落も楽しいわ。

男6 (上着になつてる) ヒュルリララ……こうかい? こうかい?

女6 アチチチ……ちよつと火照つてきちゃった。

男6 俺の上着、あたたかい?

女6 あなたつて、100%天然素材。

男6 あ、小鼻に汗粒つけて、かわいいね。

女6 いやん、ファンデーションが浮いちゃうわ。

男6 ノープロブレム。別嬪、素っぴん、天下一品。

女6 だったら、あたしのクレンジングオイルになつて。

男6 こうかい? ペロペロ、ペロペロ(小鼻を舐める)……んゝ絶品。

女5 ヒュルリララ……あたしは小5でロストバージン。小6でシガーにアルコール。中学には行かないで、波止場のディスコで、来る日も来る日も、踊ったわ。

男5 アチチチ……だったら今夜から、来る日も来る日も、ベッドの上でストリップショー、俺のために踊ってくれ。

女5 あら、それってプロポーズ?

男5 まあな。

女5 でもあなた、来る日も来る日も、養う甲斐性あるの?

男5 まかしとけ!

女5 あら、遅しゝ。

男5 来る日も来る日も、来る日も来る日も、守ってみせるよ。

男4 ヒュルリララ……ビルの角を折れて、また折れて、何遍も何遍も折れた路地裏の、できるだけ小さな風で、頬を冷まそう。

女4 アチチチ……絶対に燃え広がったりしない小さな火種で、できるだけ小さな小さな傷をつけて。

男4 街は、本当は静かなのかもしれないね。

女4 誰も心は、ざわついてないのかもしれない。

男4 やさしくない人つて、きっと魂の抜け殻なんだよ。

女4 人間つて驚くほど静かな生き物だったのね。

男4 ねえ、僕を見つめておくれ。

女4 瞬きが、もつたいないわ。

女1 ヒュルリララ……ねえ、あたしといふの退屈じゃない?

男1 アチチチ……おまえは俺を退屈させないために、そんなこと言ってるの?

女1 退屈凌ぎにあたしといふのに、もつと退屈になつてない?

男1 それとも、俺を退屈させるために、そんなこと言ってるの?

女1 あたしのうるさい口にお仕置きして。なんちゃって。

男1 アカン、股間、膨らんじゃう。

女1 いいじゃない、おしっこ出にくくなるんでしょ? なんちゃって。

男1 お、お、おまえは俺のものだよ。

男2 ヒュルリララ……さあ着いたよ、ラブホだ。
女2 アチチチ……ここ、元の場所に戻ってきてない？
男2 その人気のない路地裏が、ラブホ「宇宙船地球号」さ。
女2 青姦！？
男2 ごめんよ、タクシー代払ったら、お金なくなっちゃった！
女2 (男2のポケットに手を入れ) どれどれ……ワオ！あるじゃない。
男2 おふ、ないよお……ナニがあるっていうんだい？
女2 ウッフ、運転手さんだって、知ってたわ。

男たちへ

ビル風と、イエー……

女たちへ

火遊び、ウツフン……ビル風と、ヒュルリララ……

男たちへ

火遊び、アチチチ……

女たちへ

夜……

男たちへ

と、囁けば夜になる……

女たちへ

夢……

男たちへ

と、囁けば夢になる……

女たちへ

夜の夢……

男たちへ

建物の吐息……人間のより色っぺー……

女たちへ

あら、妬けちゃうわー……

女たちへ

あう

男たちへ

あう

女たちへ

あう

男たちへ

あう

皆へ

あうとどあせくーす

女たちへ

あう

男たちへ

あう

女たちへ

あう

男たちへ

あう

皆へ

あうとどあせくーす

女たちへ

あう

男たちへ

あう

女たちへ

あう

男たちへ

あう

皆へ

あうとどあせくーす

おくん おくん おくん おくん

おんじあーす

ランランランランランランランランデブー

ランランランランランランデブー!

女たちへ

あう

男たちへ

あう

女たちへ

あう

男たちへ

あう

皆へ

あうとどあせくーす

女たちへ

あう

男たちへ

あう

女たちへ

あう

男たちへ

あう

皆へ

あうとどあせくーす

女たちへ

あう

男たちへ

あう

女たちへ

あう

男たちへ

あう

皆へ

あうとどあせくーす

いーん いーん いーん いーん

いんざういんどう

ランランランランランランランランデブー

ランランランランランランデブー!

女たちへ

あう

男たちへ

あう

女たちへ

あう

男たちへ

あう

皆へ

あうとどあせくーす

女たちへ

あう

男たちへ

あう

女たちへ

あう

男たちへ

あう

皆へ

あうとどあせくーす

女たちへ

あう

男たちへ

あう

女たちへ

あう

男たちへ

あう

皆へ

あうとどあせくーす

あゝん あゝん あゝん あゝん

あんだざすかゝい

ランランランランランランランランデブー

ランランランランランランデブー!

あう あう あう あう

あうとどあせくーす

今夜!この街を裾に懐く

でっかい山が噴火!噴火!噴火!噴火!

夜空に火柱突き立てて

慌てふためく 樹木 焼き鳥の大群 星屑

やべえ!溶岩ドクドク垂れ流し

この街も半分土石流に、ゴックン!呑み込まれた

火山灰半端なく降りそそぐシャワー

俺たち立ちバツクのまま生き埋め!

女たちへ

立ちバックのまま化石になって
立ちバックのまま化石になって
立ちバックのまま化石になって
立ちバックのまま化石になって

男たちへ

立ちバックのまま1000万年
立ちバックのまま1000万年
立ちバックのまま1000万年
立ちバックのまま1000万年

皆へ

1000万年、立ちバック！
1000万年、立ちバック！
1000万年、立ちバック！
1000万年、立ちバック！
1000万年……

ランランランランランランランランデブー
ランランランランランランランデブー！

音楽終了。恋人たち、立ちバックの体勢で化石のように動かなくなる。

劇場の扉が開き、不良少年と不良少女が入ってくる。

不良少女 ヌキアシサシアシシノビアシ、ヌキアシサシアシシノビア……

不良少年 しっ、俺たち忍び込んでんだぜベイベー！

不良少女 マジだっ!？

不良少年 (舞台セットを見て) あちゃー、倒れたまんまだ。

不良少女 犯人は現場に戻ってきました。

不良少年 やっぱビミョーに心配だしな。

不良少女 うん、パイシンパイシン。

不良少年 あんなでっかい音したのに、誰も気づいてねえのか？

不良少女 ……セコム、してますかー？

不良少年 セキュリテイー、甘すぎじゃねー？

不良少女 スウィートセキュリテイー。スウィートダーリン。

不良少年 スウィートベイベー。ハラへったなあ。

不良少女 ハラがへっては no future……飴ちゃんあるよ。

不良少年 飴ちゃん食べようぜ！

不良少女 どーぞ。

不良少女、チュッパチャプスを2本取り出し、一本を不良少年に渡す。

不良少年 凄え、チュッパチャプスだ！

不良少女 (包みを取って) ……ぼーい (投げ捨てる)。

不良少年 ぼーいは駄目だぜベイベー (拾う)。拾って捨てる人の気持ちになれよ。

不良少女 あんたのそんなやさしいとこ好き。

不良少年 別にやさしかねーよ。やさしさなんて no future だぜ。

不良少女 ねえ、座ろー。足がぼー。

不良少年 ああ。座ってチャプスをチュッパしながら演劇みようぜ。

不良少女 わーい、あたし演劇見んの初めて〜。

二人、劇場の座席に座って、舞台を見つめる。

不良少女 演劇やってないよ……

不良少年 頭ん中で勝手にイメージしよーぜ……

不良少女 そつかー……チュッパ、チュッパ……

不良少年 チュッパ、チュッパ……

不良少女 ねえ、どんな演劇見てんの？

不良少年 俺……チュッパ、チュッパ……アクション。おまえは？

不良少女 あたし……チュッパ、チュッパ……ラブロマンス。

不良少年 チュッパ、チュッパ……俺やっぱポルノ。

不良少女 あんたのエロいとこ嫌い！

不良少年 ねえ、おまえさあ、いつになったらやらしてくれんの？

不良少女 いつになっただってやらせないよ！アイアムフォーエバーバージン。

不良少年 だったら俺も、チェリーさ。ねえ、キスは駄目？
不良少女 駄目だよ、演劇見てんだから！チュッパ、チュッパ！
不良少年 じゃあ、手、繋ごうか？
不良少女 いいよ。

二人、手を繋いで舞台を見つめている。

不良少年 楽しいね……

不良少女 楽しいよー……なんか、眠く、なってきた……

不良少年 寝たきや寝んだぜ……

不良少女 自由じゃん……

不良少年 人生は自由さ……おやすみ。

化石のように動かなかった恋人たち、このシーンの動作を始める。

女3 あなたの舌があたしのカラダをナゾル時、あたし初めて、自分のカラダの形を認識するわ……

男3 俺の舌先は、火の粉だから。

女3 あん。うなじ、焦げちゃう焦げちゃう……

男3 ペチヨペチヨ、唾液で消火活動。

女3 あーん、余計に、燃え広がっちゃう……

男3 君の舌が俺のイチモツをナゾル時、俺初めて、自分のイチモツの形を認識するよ……

女3 あたしの舌先は、火の粉だから。

男3 おふ。うらすじ、焦げちゃう焦げちゃう……

女3 フーフー、吐息で消火活動。

男3 おーふ、余計に、燃え広がっちゃう……

女3 (窓から外を見て) 夜だわ……

男3 (窓から外を見て) 夜だよ……少し風を入れようか？

女3 でも、声が外に漏れちゃうかも？

男3 漏らしたっていいんだよ、おしっこも、声も。

女3 じゃあ、5センチだけ……

男3 (窓を開ける) 1センチ、2センチ、3センチ、4センチ、5センチ……

女3 あん、(風が) 気持ちいい……

男3 (窓を閉める) 5センチ、4センチ、3センチ、2センチ、1センチ……

女3 あん、(なにが?) 気持ちいい……

男3 (窓を開けつつさりげなく挿入にシフトチェンジ) 1センチ、2センチ、3センチ、4センチ、5センチ……

女3 あん、気持ちいい……

男3 5センチ、4センチ、3センチ、2センチ、1センチ……

女3 あん、気持ちいい……

男3 1センチ、2センチ、3センチ、4センチ、5センチ、6センチ、7センチ、8センチ、9センチ、10センチ、11センチ、12センチ、13センチ、14センチ、15センチ、1

6センチ、17センチ、18センチ、19センチ、20……

女3 ウッフッフッフッフ！見栄っ張り。

男3 アッハッハッハッハ！

女3 女はね、挿入とかじゃないのよ。

男3 だよね、基本、リラックスだよね。

女3 あなたとこうしていると、とつても落ち着くわ……

男3 少なくともこの部屋の中は、世界平和だよ……

女3 嬉しい……

男3 1センチ、2センチ、3センチ、4センチ……

女3 センチという具体的な単位は、忘れましょう。

男3 10分の5、10分の6、10分の7、10分の8、10分の9……

女3 分母は省略していいんじゃない？

男3 あ、ああ、そうか、10分の8、7、6、5、4、3、2、1、2、3、4、5、6、7、8、9、10！

女3 あん、気持ちいい！

男3 9、8、7、6、5、4、3、2、1、2、3、4、5、6、7、8、9、10！

女3 あん、気持ちいい！

何回か繰り返す。徐々にスピードが速くなる。

男3 9、10、9、10、9、10、9、8、7、6、5、4、3、2、1、0、あつ、ごめん、うっかり、抜けちゃった……

女3 人は誰しも、うっかり屋さんよ。

何回も繰り返す。凄いスピード。挿入の割合を示す数字から、カウントダウンの数字になる。

男3・女3 10、9、8、7、6、5、4、3、2、1、0！

ベートーヴェンの『悲愴』第二楽章が流れる。二人、このシーンの動作を繰り返す。

男6 君を、どんなに隅々まで、舐めたって、一人の時の君を、1ミリも舐めることはできない……ペロペロ……

女6 あん……なに言ってるの？

男6 君を、どんなにずっと、舐めたって、一人の時の君を、1秒も舐めることはできない……ペロペロ……

女6 あん……変なこと言ってるの？

男6 君の味、美味しいけど、一人の時の君がどんな味なのか、俺は知らない……ペロペロ……

女6 あん……不味いよ。一人じゃお風呂も、めんどくさいし。

男6 一人の時の君は、元気なの？ペロペロ……

女6 あん……まあまあ元気。

男6 君が一人の時、世界は平和なの？ペロペロ……

女6 あん……まあまあ平和かな？

男6 君が一人の時、地球は何色？ペロペロ……

女6 あん……きつと青。

男6 一人の時の君の心は、どうなってるの？ペロペロ……

女6 あん……臨終の床の老婆のように、静謐です……

男6 一人の時の君の心の中に、俺はいる？ペロペロ……

女6 あん……あなたが来てくれたなら……

男6 一人の時の君の心の中には、どうやって行けばいいの？ペロペロ……

女6 あん……（窓から外を見て）夜だわ……

男6 （窓から外を見て）夜だよ……

女6 (窓を開ける) 風は、やさしく吹いております。無風よりも、少しだけ吹いたほうがやさしさを表現するということところに、風と、あなたの愛撫との、類似性を発想し、連想され……

男6 ペロペロ……

女6 あん……

女6 あん……: シティーガールで教養のないあたしの、心は純、お股は潤……

子とセックスが好きな、小娘ではありません……

男6 俺はもう、ゲームとセックスが好きな、坊やじゃないのさ……ペロペロ……

女6 あん……

男6 心とか頭で、何か感じたり思ったりするのも、もう、できるだけやめたいんだ。だって、たまに、すごく嬉しいことあっても、すぐに、本当に嬉しいのかわかんなくなっちゃうし、たいがいは、いつも、腹が立ったり、憎んだり、虚しかったり、羨んだり、怖がったり、してただけだもの、ペロペロ……

女6 あん……

男6 ほんとにもう、馬鹿の一つ覚えみたいに、シティーボーイで教養のない俺は、腹が立ったり、憎んだり、虚しかったり、羨んだり、怖がったり、してる、ペロペロ……

女6 あん……

男6 黙って、閉じて、じっと、生きられたらどんなにいいかって思っているんだ……ペロ……

女6 (前の台詞に重ねる) 風は、やさしく吹いております。

二人、このシーンの動作を繰り返す。

女2 (窓から外を見て) 夜だわ……

男2 (窓から外を見て) 夜だよ……

女2 星、綺麗え……

男2 布団から星見えるなんて、最高でしょ？俺の四畳半アパート。

女2 風呂なしだってノープロブレム。

男2 セックスが終わったら、銭湯行こうね。

女2 うん。

男2 君は、宇宙人信じる？

女2 信じるう、信じるう。あなたは？

男2 (空を見て) こんなに広いんだから、なんかいるかもね。

女2 どんな形してんのかなあ？宇宙人。

男2 こんな形かも、よ……

女2 あん……: こんな、エリンギみたいな形だったら、素敵いい……

男2 俺、宇宙人に嫉妬しそう……

女2 もしかして、こんな形かも、よ……

男2 おふ……: こんな、イソギンチャクみたいな形だったら、たまらなあい……

女2 あたし、宇宙人に嫉妬しちゃう……

男2 とところで、セックスしながらお喋りするのって、どう思う？

女2 いいと思う。信頼関係感じるし。
男2 でも、集中途切れない？
女2 集中途切れたら、またくつつければいいじゃない。
男2 股、もうくつついてるよ。
女2 ウフフ、もつと、こうやって……
男2 おふ……快樂は集中の接着剤。
女2 愛液はアローン[㊟]。
男2 君に抱かれながら星見ると、なんか俺も、星になったような気がしてくるよ。
女2 あたしも。あたしも星になったような気がしてくる。
男2 俺は、君の周りをクルクルまわる惑星……
女2 あたしも、あなたの周りをクルクルまわる惑星……
男2 マー、
女2 キュリ……
男2 マー、
女2 キュリー！
男2 ビー、
女2 ナス！
男2 ナス……
女2 ナス？
男2 アー、アー、アス！
女2 マー、マー、マーズ！
男2 君のヴァギナって、宇宙人！？
女2 ジュピ……
男2 おふ。
女2 ジュピジュピジュピジュピ……
男2 ター！
女2 ジュピジュピジュピジュピ……
男2 ター！
女2 サ、サ、サ、ターンターンターン！
男2 ユラユラユラユラ……ヌヌヌヌ、ヌス！
女2 あなたのペニスって、宇宙人！？
男2 ネプ……
女2 あん。
男2 ネプネプネプネプ……
女2 チュン！
男2 ネプネプネプネプ……
女2 チュン！
男2・女2 (空を見て) あっ、UFOだ！

ベートーヴェンの『悲愴』第二楽章が流れる。二人、このシーンの動作を繰り返す。

男4 おふ……ちよつと、今、キュツと締めたでしょ？

女4 あなたのが、ピクツと動いたのよ。
男4 君のがキュツと締まったから、俺のが反応したんだよ。
女4 あなたのがピクツと動いたから、あたしのが反応したの。
男4 どっちが先ってことじゃないか？
女4 いっせーのーせで同時にやってみる？
男4 よし。いっせーのー、おふ……ちよつと、フライング。
女4 あなたのが、ピクツと動いたんでしょ。
男4 動いてないよ、だつてまだ、せ、つて言っていないぜ。いい、せ、だぜ。
女4 わかった。
男4 いっせ、おふ、ちよつと、いっせーの、せ、じゃなくて、のーせ、の、せ、だぜ。
女4 難しいなあ……
男4 じゃあ、君が、いっせーのーせつて言えばいいよ。そうしたら君のタイミングでできるでしょ？
女4 わかった。いっ、
男4 おふ……
女4 のー、
男4 おふ……ちよつと、せ、のかわりにキュツと締めてんでしょ？この、いたずら娘え。
女4 (窓から外を見て) 夜だわ……
男4 (窓から外を見て) 夜だよ……
女4 夜の街だわ。
男4 キラキラしてるね。
女4 ねえ、エッチが終わったらコンビニ行こう？
男4 いいよ。何買うの？
女4 ん、ハーゲンダッツ。
男4 一口ちようだい？
女4 いーよ。
男4 俺は、ビール買う。
女4 一口ちようだい？
男4 一口じゃ済まないでしょ？
女4 確かに。
男4 じゃあ、二本買おうね。
女4 わーい。
男4 君を、離さないよ……おふ……ちよつと、今、キュツと締めたでしょ？
女4 あなたを、離さないわ……
男4 この、いたずら娘え。
女4 ねえ、あなたのお母さん元気？
男4 ねえ、君のお父さん元気？
女4 あたし、あなたのお母さんとうまくやっけていけるかな？
男4 俺は、君のお父さんとうまくやっけてみせるよ。
女4 あたし、あなたのお母さんの老後のお世話できるかな？
男4 俺は、君のお父さんの暮の相手になるよ。
女4 お父さん、負けず嫌いよ。

男4 男と男の、真剣勝負さ……ねえ、君を離さないよ……
女4 ねえ、あなたを離さないわ……

二人、このシーンの動作を繰り返す。

男5 ねえ君、どうして体を揺らすんだい？
女5 どうしてって、あなたがあたしを、上に乗ったから。
男5 君が揺れると、俺の、心まで揺れちまって、たまらないんだ……
女5 そんなやさしいこと言うのは、どのお口だあ？……あらまー、おちよぼ口。
男5 おちよぼ口ってなにかと頬張りづらいけど、なにかと、吸いやすいんだぜ。
女5 なにかとって、なあに？
男5 ストローとか、麺類とか、君の、乳首とか……
女5 あん……
男5 チューチュー……
女5 あらまー、おっぱいがよくお似合いなこと。
男5 君のおっぱいだからさ。君でなくちゃ駄目なのさ……
女5 そんなやさしいこと言うのは、どのお口だあ？……あらまー、おちよぼ口。
男5 おちよぼ口ってなにかと頬張りづらいけど、なにかと、吸いやすいんだぜ。
女5 なにかとって、なあに？
男5 ストローとか、麺類とか、君の、もう片方の乳首とか……
女5 あん……
男5 チューチュー……
女5 あらまー、おっぱいがよくお似合いなこと。
男5 君のおっぱいだからさ。君でなくちゃ駄目なのさ……
女5 (窓から外を見て) 夜だわ……
男5 (窓から外を見て) 夜だよ……
女5 あたしが自意識過剰だった頃、夜の街は、あたしにとってもやさしかったわ。
男5 俺が自意識過剰だった頃、夜の街は、俺にとっても冷たかったよ。

間。

女5 静かね。
男5 静かだ。君の、愛液の音しか聞こえない……
女5 いやん、ばかん……
男5 あっはっはっはっはっ。

間。

女5 静かね。
男5 静かだ。
女5 きっと空が、どんどん無口になっているのよ。
男5 俺も、どんどん無口になってくようだ……

女5 どんどん無口になって、最後に一言だけ言うとしたら、なあに？
男5 愛しているよ……
女5 うあはん、うでしー、ね、もーいつかいいって〜。
男5 最後の一言だろ？
女5 どうわはっ、いじゅうあるー。
男5 ふあっさ、ふおっさ、ふあっさ、ふおっさ……
女5 こうしてくつつつしていると、あなたのオケケとあたしのオケケ、繋がったみたい！？
男5 一本一本、結んでしまいたいよ……
女5 あん……だあ……へあ……
男5 ふあっさ、ふおっさ、ふあっさ、ふおっさ……
女5 つまるところ、人間なんて大嫌いだけど、あなたのこと大好きよ……
男5 俺だって、人生なんかとつとと終わってしまいたいけど、君と一瞬でも永く、こうしてくつつついていたよ……
女5 こうしてくつつつしていると、あなたの血管とあたしの血管、繋がったみたい！？
男5 でも俺、A型だぜ……
女5 あたし、O型よ……
男5 えー……
女5 おー……
男5 えっ？
女5 おっ？
男5 えー！
女5 おっ？
男5 えっ？
女5 おー！
男5 えー……
女5 おー……
男5 え〜！
女5 お〜！

ベートーヴェンの『悲愴』第二楽章が流れる。二人、このシーンの動作を繰り返す。

男1 有史以前って昔話じゃない、俺とか裸ならほとんど原始のままさ！

女1 きゃっ、あたしのターザン！

男1 (雄叫び) あーああ〜！三つ星シェフの匠の技じゃない、君とか裸ならふんわり厚焼き玉子！

女1 ねえターザン、人類の長所って、なあに〜？

男1 愛！

女1 ねえターザン、人類の短所って、なあに〜？

男1 愛！

女1 人類の歴史は、愛の歴史！

男1 愛の終わりは、人類の終わり！
女1 あなたこそ、紳士よ！
男1 おまえこそ、淑女だ！
女1 元旦から大晦日まで、あなたとお喋りし続けたら、どんな言葉が出るのかしら？
男1 元旦から大晦日まで、おまえを舐め続けたら、どんな味がするのかしら？
女1 元旦から大晦日まで、微笑み合ったら、どんな笑顔になるのかしら？
男1 元旦から大晦日まで、おまえをいじめ続ける、危ないプレイってあるのかしら？
女1 元旦から大晦日まで、泣き続けたら、涙は何色になるのかしら？
男1 元旦から大晦日まで、挿入し続けたら、おまえは何回イクのかしら？
女1 元旦から大晦日まで、愛し続けたら、あなたは生きていくのかしら？
男1 元旦から大晦日まで、おまえを愛し続けるには、どうしたらいいのかしら？
女1 シー……あたしたち、言っていることが噛み合っていない？
男1 だったらお互いの体、噛み合ってみる？
女1 ガブリ！
男1 おふ……おまえの歯形は俺のタトゥーさ！
女1 噛んで、あたしのターゲットン！
男1 ガブリ！
女1 あん……食べて、あたしの厚焼き玉子！
男1 むしゃむしゃむしゃむしゃ……星、三つです！
女1 (窓から外を見て) 夜だわ……
男1 (窓から外を見て) 夜だよ……
女1 夜だってば夜よ……
男1 夜の街だよ……
女1 街だってば街よ……
男1 夜の街には、人だよ……
女1 人だってば人よ……
男1 人の心の中は、闇だよ……
女1 闇だってば闇よ……
男1 闇の中には、何も無いよ……

う。 延々とシーンの動作を繰り返していた、恋人たち。窓から外を見る部分になる。口々に言

女たち (窓から外を見て) 夜だわ……
男たち (窓から外を見て) 夜だよ……

ベートーヴェンが流れている。

音楽開始。恋人たち、ゆっくり離れ、顔を背け、相手から去る。

女たちへ

だ、ら、だらだら、だ、らだらだ、ら、だ、らだらだ、らだらだら、
だ、ら、だらだら、だ、らだらだ、ら、だ、らだら、だ、らだら……

女1 最近、なんにも気にならない。過去も、未来も、仕事の失敗も、預金残高も、分け目からぴよこつと出てる白髪も、この部屋の汚れも、あの人からぱったり、連絡来なくなったのも。

別に喧嘩したって訳じゃないのに、やりたいだけセックスしたら、飽きちゃったのかな？あ

くなんかもう、あんな男に、やりたいだけやらしてあげちゃって、損したな。

冷静に思い返せば、エッチも平凡だったし、キスも下手くそだったし、なんであんなに、最高おって思っちゃったのかしら？お喋りもつまらなかつたし、多分頭も、悪かつた。

ま〜いーか、寧ろ、いーか！。だからなんにも気にならない。あの人からぱったり、連絡来なくなつたのも。ぱったり、連絡来なくなつたのも。連絡来なくなつたのも。来なくなつたのも。の。も。飲もう。もう飲もう。飲もう。もう……

女2 夜、寝る時、一人だと、布団たくさん使えます。手、足、伸ばして大の字です。ぎゅーんと伸ばします。ぎゅーんと伸ばしても、手の先も、足の先も、誰にもなんにも当たりません。

広々しています。手足が、のびのびと、自由に、布団の中を動いています。睡眠環境大事です。これで肩こりとおさらばです。彼氏とおさらばしたら、肩こりとおさらばしました！

よし、今夜はあたしの左手が主人公です。布団の中の洞窟を探検です。真っ暗です。酸素も薄いです。わっ、なんだこれ！恐竜！？恐竜です！あたしの左膝だけど恐竜です！わあ逃げろく！

あっ、森です！森の茂みです！茂みの中で身を潜めます……おや？なんでしよう？なんか、突起があります。ん、コリコリしてます。コリコリ……んん……コリコリ……嗚呼！泉が、湧き始めた！？

女4 難しい本が読みたいな。

なんの役にも立たない、なんの楽しさもない、

分厚い、分厚い、本を、丁寧に1文字ずつ読み、丁寧に1文字ずつ忘れ去ろう。

飛び切り難しくて分厚い、ずっしり重たい本を、

リュックサックに入れて遠くの港町の砂浜を歩きたいな。

一步一步、足が砂に埋まって、時々踝くらいまで埋まって、のんびり歩こう……

おー、生まれて初めての一人旅ではないかっ！？

古い旅館に泊まってみたいな、湯上りに海の幸いただいて、満腹で蒲団に寝転んで、

なんの役にも立たない、なんの楽しさもない、

飛び切り難しくて分厚い本を、丁寧に1文字ずつ読み、丁寧に1文字ずつ忘れ去ろう。

無理い無理い、俺シティーボーイだし とりあえず、海の幸いただきたいなあ……
おんぼろ旅館の蒲団に潜って 嗚咽と波音のハーモニーです

男たちへ

だ、ら、だらだら、だ、らだらだ、ら、だ、らだらだ、らだらだら、
だ、ら、だらだら、だ、らだらだ、ら、だ、らだら、だ、らだら……

古びて 油差しても

やっぱちよつとずつ動かなくなつてく

頭 体 心

ずりずり引き摺って生きてる

皆へ

だ、ら、だらだら、だ、らだらだ、ら、だ、らだらだ、らだらだら、
だ、ら、だらだら、だ、らだらだ、ら、だ、らだら、だ、らだら……

男5へ

そんなわけで俺は電車に乗って そんなわけで俺はコトコト揺れた

お袋の作る煮物の 新ジャガみたいにくトコトコト……

都市・町・村・町・都市・町・村・町・都市・町・村・町

何遍も繰り返し車窓を流れ やって来た麗しの地方都市

女5へ

いきなりど田舎じゃ不安になるから 乗り換えのターミナル駅で下車

駅ビルのちよつと小洒落たレストラン ランチのスープ、アッチッチ……

駅ビルの最上階は へーbar になつてるの

只今欧州ビールフェアー 帰りに寄ってみようかな？

男3へ

ほどよくなんでもありそうだけど 東京みたいに窮屈じゃない

結婚して子供ができたなら こんな町に住みたいなあ……

かつての城下町 美人が信号待ち

声かけてみつか、ナンパしてみつか 生まれて初めてだけど

女3へ

お洒落なハンドバック だけど小脇にガイドブック

ポケットにキットカット お肌はUVカット……

あたしは歴史ギャル 小粋な武将ギャル

お城とお空と鳩と 自分の影を記念撮影

男5 ローカル線は途中からほとんど沿岸、走ってる。俺、思考が停止するほど視覚が敏感になつて……窓を全開にして潮風をおでこに当てよう。一駅一駅が遠い、山手線半周分くら

い。

女5 ローカル線は途中から誰もいなくなった。運転手さん、あたし、車掌さん、あたし……窓の上半分は空、窓の下半分は海、海見んのいつ以来かな？前の前の前の前の彼の氏と行って以来。

男3 結局ナンパは勇気が出なくて出来なかったがまーいーのさ、一人旅は始まったばかり、旅の恥掻き捨てるチャンスはまだまだある……あれでもなんかこの電車、ほとんどひと気なくなってきた。窓の外の海、よく晴れてるのに、サーファーガール一人もいねーなー。

女3 ほとんど建物になってない駅、無人改札いつのまにか外、この地はかつて敗軍の将が、傷ついた身体を癒した秘境……海と山とのハーモニー、海水と温泉のカクテル。老婆が道端で固まっている、潮風吹き付け錆びている。

男5

道の真ん中で猫が踊ってる 背中回るブレイクダンス
俺もゴロニヤーと喉鳴らす あっひさしぶりに声出した……
軒先で股引と変な木 潮風にフラフラ揺られてる
動いてんのはたったそれだけ 俺の視界の範囲内

女5

ひっそりとした路地の 一際ひっそりとした旅館
すいませーん、予約してたものです あっひさしぶりに声出した……
いらっしやいませー 遠くまで、よーこそ
笑顔がしわくちや女将さん 天国の母さん思い出す

男3

夕食までの数時間 のんびり歩きたいから
あわよくば一人旅の女性とか見つけて 声かけてみたいから……
ひとまず旅館に荷物を置いて 身軽になってホップステップ
でも、いくら歩いても 人っ子一人いない浜辺

女3

砂浜マドンナ 砂の上ランウェイ
足腰クタクタ お腹ペコペコ そうだ！ポケットにキットカット……
もうすぐ夕飯の時間なのに、食べちゃった くいしん坊！万才
靴脱いで、靴下脱いで 塩水に素足浸す

皆、砂浜に腰を下ろす。

女6 こうして浜辺に座る時、お尻にくっつく砂粒を気にしない。

男6 低反発マクラみたいに、俺のヒップラインを砂粒が包み込む。

女6 夕陽が目から染み込んで、心の中に滴っている。
男6 夕陽って低刺激目薬みたいに、涙成分配合してる。
女6 いやだ、気がついたら寄せる波が、あたしのスカート濡らしてる。
男6 おいおい、気がついたら返す波が、君との思い出を持ち去っている。
女6 あたし、水着は着たくないけど海好きよ。
男6 俺、泳げないけど海好きだよ。
女6 あなたと、色々なところへ行っただわね。
男6 君と、色々なところへ行っただわね。
女6 あなたと、色々お喋りしたわね。
男6 冗談ばかり言っていたね。
女6 ねえ、今度はどこを旅行する？
男6 君の行きたいところがいいよ……
女6 あたし、できるだけ遠くがいいわ……
男6 北海道にするかい？
女6 もっと、遠くがいいわ……
男6 沖繩にするかい？
女6 もっと、遠くがいいわ……
男6 外国にするかい？
女6 もっともっと、遠くがいいわ……
男6 宇宙にするかい？
女6 フフフ……
男6 それとも、一緒に死のうかい？
女6 夕陽の色が、どんどん濃くなっている。
男6 空も海も、どんどん深く滲ませている。
女6 あたしの心も、どんどん茜色になる。
男6 俺の心も、どんどん茜色になる。
女6 ねえあなた、あたしとっても寂しいわ……
男6 ねえ君、俺はとっても寂しいよ……

皆へ

古びて 油差しても

やっぱちよつとずつ動かなくなってく

頭 体 心

ずりずり引き摺って生きてる

波の彼方とか雲の遥かとか夢物語じゃねえか

一羽のカモメ 浮かんで 揺れて 消えていなくなる

死んでく間際の自分の心は沈んでく夕陽だろうか

あなたのことが 滲んで 溶けて 消えてなくなる

あたたかな肌で撫で撫で、歯が当たったかな咬み咬み

やさしい笑顔で顔が崩れてチャーミング yeah!
いい大人がって言って強がってたって、いい子だねって可愛がって
やさしいあなたがやさしいまんまで、どっかで元気に生きてますように

波の彼方とか雲の遥かとか夢物語じゃねえか

一羽のカモメ 浮かんで 揺れて 消えていなくなる

死んでく間際の自分の心は沈んでく夕陽だろうか

あなたのことが 滲んで 溶けて 消えてなくなる

死んでく間際の自分の心は沈んでく夕陽だろうか

あなたの声が 汽笛のように 聞こえなくなる

死んでく間際の自分の心は沈んでく夕陽だろうか

あなたの顔も 蜃気楼 ぼやけて見えない

死んでく間際の自分の心は沈んでく夕陽だろうか

なんども呼んだあなたの名前 一文字も出てこない

死んでく間際の自分の心は沈んでく夕陽だろうか

あなたのことが 滲んで 溶けて 消えてなくなる

茜色水路 茜色水路 茜色水路

色 色 色 yeah……

男たち、誰もいない窓際で、女の面影にキスをする。女たち、誰もいない窓際で、男の面影にキスをする。それが数回繰り返された最後、お互いの面影が合わさるように、唇が重なる。

音楽終了。

恋人たちの亡霊が、唇を重ね止まっている。劇場の座席に、不良少年と不良少女、座っている。

不良少年 終わったあ？

不良少女 ん？

不良少年 演劇、終わったあ？

不良少女 うん。

不良少年 ハッピーエンドだったあ？

不良少女 さあ、寝てたからわかんない。

不良少年 おまえのラブロマンス、まだ終わってねーよ。

不良少女 え？

不良少年 ラストシーンは、これからだぜ……

不良少年、おもむろに舞台上上がる。冒頭、剥き出しになった舞台セット裏の階段を駆け上る。

不良少女 なになに？どしたあどしたあ？

不良少年、最上段に上る。

不良少年 (もの凄い大きな声で) あー！！！！いー！！！！しー！！！！てー！！！！るー！！！！

不良少女、拍手。

不良少女 マジだっ！？(涙チョチョ切れながら) チョー嬉しー……あんたー！！

不良少女、階段を駆け上がり、不良少年に抱きつく。

不良少年 あぶねーし！

不良少女 きゃっきゃ、あんたー！

不良少年 あぶねーったら！

不良少女 きゃっきゃ、あんたー！

不良少年 おい、くすぐってーって！

不良少女 嬉しーよー、きゃっきゃ！

不良少年 うひゃひゃひゃひゃ……

二人、じゃれ合う。ふと静かになり、劇場全体を見つめる。

不良少年 ……

不良少女 ……

不良少年 マジ、誰もいねーな……

不良少女 うん……誰もいない……

不良少年 真っ暗だなー……

不良少女 真っ暗ー……

不良少年 なんか、恐えーなー……

不良少女 恐えー……

不良少年 行こうか。

不良少女 うん。行こう。

不良少年 ほら、掴まれ。

不良少女 うん。

不良少年 歩けっか？

不良少女 うん。

不良少年 段差、気をつけろよ。

不良少女 うん。

階段を下りる。

不良少年 おんぶすっか？

不良少女 うん。

おんぶする。

不良少女 あんたの背中、あったかい。

不良少年 おまえのおっぱいも、柔らかけーよ。

不良少女 あんたのエロいとこ嫌い。

不良少年 しょーがねーだろ、当たってんだから。

おんぶして、劇場内通路を歩いている。

不良少年 恐えーなー……

不良少女 恐えー……

不良少年 恐えーなー……

不良少女 恐えー……

二人、劇場の扉から出る。

恋人たちの亡霊、唇を離し、出てきた順番とは逆に、棺に吸い込まれるように入って行く。棺の蓋が閉まる。

完